

永田英樹会員の波佐見高等学校を取材

「長崎波佐見町立波佐見高等学校」高校に町立ってある???

永田英樹会員が校長を務める長崎県立波佐見高等学校(普通科、商業科、美術・工芸科)はこのように呼ばれるほど町や町の人たちと一体化して生徒を育てています。誰もが勘違いをしてしまうほど町の中に溶け込んでいます。



その理由は波佐見町全体を校舎、教室として生徒たちを育成しているからです。紹介しましょう。①毎年 30 万人訪れる波佐見陶器祭りではポスターを作っています。何人かの生徒が作ったデザインから中から波佐見焼振興会によって選ばれるのは 1 点ですが、生徒たちにとってはやりがいのある機会です。②波佐見町には貴重な棚田(鬼木棚田)があり、その活性化の応援もしています。生徒たちの考案でその田んぼから収穫されるお米の米粉で作った「棚田の恵み」

というクッキーが商品化されました。人気商品です。また、棚田の田植えや稲刈りなどの体験学習や案山子コンテストへの参加などに積極的に参加しているようです。③波佐見町には登り窯(部屋数 29 室、全長 155 メートル)とあって、江戸時代には世界一の長さを誇った窯が存在します。その歴史の灯を消すまいと、毎年 10 月になるとその窯に火を入れ生徒たちが陶器を焼くそうです。火を守るため寝ずの番もします(ただし先生方が!)。④波佐見町のマスコットキャラの「はちやまる」も生徒のデザインです。様々な個所でこのキャラクターが活躍していますが、なかでも、生徒がデザインした「佐世保-福岡間高速バス」のラッピングデザインにも大きく描かれています。

キャリア教育の一環として、インターンシップも行っています。これは町内に限らず県内で行っているとのこと。ハウステンボスのインターンシップにも毎年 20~30 名が参加しています。夏と春に約 1 か月間赴き、ホテルのベッドメイキングをはじめハウステンボスのさまざまな作業を手伝います。最後の日には従業員の方々の前で報告会を行っているそうです。

実は取材者は高校内で校長室を探しそこなって迷子になっていました。近くにいた男子学生に尋ねると「お連れします」というはきはきした返事で率先して歩き出しました。「教えてくれれば大丈夫」と言ったのですが、校長室まで案内してくれました。波佐見高等学校の教育が彼の姿からうかがえました。